

病児保育室「あんず」のチョットアノネ

テーマ：百日咳の流行

No95. (2025. 4. 20.)

百日咳の流行

国立健康危機管理研究機構は4月15日に、全国の医療機関から3月31日～4月6日の1週間に報告された百日咳の患者さんの数が722人だったと明らかにしました。前の1週間よりも24.9%増加しており、**過去最高の患者数**となりました。患者さんの数が多いのは、新潟73人、宮崎51人、東京と大阪が44人となっています。今年の4月6日までの総患者数は5652人で昨年1年間の患者数4054人をすでに上回っています。宮城県でもこれから百日咳の患者さんが増加するのではないかと危惧されています。

百日咳とはどんな病気？

百日咳菌が原因の感染症で、飛沫感染と接触感染でうつります。潜伏期間は7～10日で、普通の風邪と同様の症状で始まります(カタル期と言い、1～2週間続きます)。次第に咳き込みが強くなりコンコンコンと連続的に咳き込み、咳をしている時は息を吸わないので、だんだん顔が赤黒くなり、咳が終わるとヒューッと笛が鳴るように息を吸います(痙咳期と言い、2～3週間続きます)。その後徐々に咳は軽くなりますが発作性の咳が見られます(回復期と言い、2～3週間続きます)。このような特徴的な症状は乳幼児期に見られますが、学童期になると目立たなくなり、咳が長引き夜中に咳き込んで起きるような症状が見られます。生後2～3か月以内に百日咳に感染すると**息が止まる**(無呼吸発作)事があり重症化します。また**肺炎、中耳炎、脳症**などの合併症を起こすと事もあります。診断は細菌培養、核酸同定(LAMP法、PCR法)、抗体検査で行い、治療は百日咳菌に有効な抗菌薬を投与します。抗菌薬で百日咳菌は抑えられますが、百日咳菌毒素(P T)が気道の細胞を損傷するために咳き込みは続きます。

百日咳

- ✓ 急に“コン・コン・コン”と連続して咳込む
- ✓ 咳込んだあと、吐いたり、“ヒュー”と息を吸う音
- ✓ 赤ちゃんは、咳をする前にいきなり呼吸が止まることも



百日咳の予防

マスク、手洗いなどの一般感染症予防対策は大切ですが、なんといっても**予防接種が一番重要**です。生後2か月になったら速やかに5種混合ワクチン接種することが勧められます。以前行われていた3種混合ワクチン、4種混合ワクチンにも百日咳ワクチンが含まれています。しかし百日咳ワクチンの効果は3～5年で減弱し、約12年で消失しますから、百日咳ワクチンを接種していても罹患します。予防接種をしていない生後2か月前の赤ちゃんや小学生、中学生、大人の人で咳き込みが続いている場合は百日咳に要注意です。免疫と保つためには任意接種ですが小学入学前と小学卒業前に百日咳ワクチン(3種混合ワクチン)を接種することをお勧めします。

現在流行している病気は何ですか？

宮城県内では：第1位 感染性胃腸炎、第2位 新型コロナ、第3位 インフルエンザ

亘理郡内では：第1位 感染性胃腸炎、第2位 溶連菌感染症、第3位 アデノウイルス感染症

大友医院病児保育室「あんず」より

最近では急激に気温が高くなり、暑さに慣れていないために熱中症にも注意が必要になりました。スギ花粉症はそろそろピークが過ぎ終息に向かっています。宮城県内では感染性胃腸炎(ノロウイルス胃腸炎)、新型コロナウイルス感染症、Bインフルエンザの患者さんが多いようですが、溶連菌感染症、伝染性紅斑も流行が見られています。感染症対策を行うとともに、きちんと睡眠、休息を取り、栄養バランスに気を付けて体力保持に心がけましょう。

病児保育室「あんず」：電話 0223-35-6455

